ちいきのなかま通信

No.84

発行日：2020年10月23日
発行者：特定非営利活動法人　ちいきのなかま

産前産後家事サポート報告

コロナ禍の家事・育児

妊産婦 民間支援に壁

県内、助成も認知度不足

里帰り出産を控えたり、遠方の家族の手助けを得られなかったり。新型コロナの感染拡大が女性のお産にも影響を及ぼす中、民間などが提供する「家事・育児支援サービス」が注目されている。県内では利用料金の助成を始めた自治体もあるが、認知度不足や、家事や育児を他人に任せることへの抵抗感が普及の壁になっている。

佐世保市内の住宅。同市のNPO法人「ちいきのなかま」の家事サポーター、向坂望さん(40)が、6月末に生まれた中伊萱ちゃんをベビーバスに寝かせた。母親の胡遐さん(33)は別室で仮眠中。優しく湯を掛けられると伊萱ちゃんは大きなあくびをした。

胡さんは中国出身。夫が仕事で中国に滞在している間に新型コロナの感染が拡大。帰国できなくなり、1人で初めての出産に臨むことになった。「産後に精神的に不安定にならないか」「コロナ禍で買い物に出掛けて感染しないか」…。家族の助けも得られず、不安だった時、かかりつけの産婦人科で同法人の家事サポートを紹介された。

同法人は昨年、産前産後の女性の希望に応じて料理や掃除、赤ちゃんの沐浴などを代行する事業を本格的に開始。国内でも感染が拡大した3月以降、想定していた家族の支援が得られなくなった人の相談が増加。現在、今月出産を控え、地元への帰省を取りやめた妊婦など数件の依頼が入っている。

約1カ月利用した胡さんは「相談もできてとても励まされた」と笑顔。同法人の山崎翠理事はコロナ禍での家事、育児支援の役割について「産後は孤立感を抱きやすいので人と接することを控えなければならない。精神的に落ち着くためには体の休息、回復は欠かせない」と強調する。

県内ではNPO法人や家事代行業者、シルバー人材センターなどが「家事・育児支援サービス」を展開。コロナ禍で里帰り出産ができない妊産婦を対象に長崎市が8月、佐世保市は9月に同サービスの利用助成を始めたが、申請は長崎市がゼロ、佐世保市も数件にとどまる＝いずれも9月29日時点＝。利用が低調な要因について長崎市の担当者は、サービス自体があまり知られていない上、「お金を払い家事や育児を手伝ってもらうことになじみが薄い」とみる。

妊産婦側にも心理的抵抗がある。「ちいきのなかま」の支援を受け、5月に第2子を出産した佐世保市の30代女性は「家のことをお願いするのはハードルが高い」と明かす。それでも利用したのは第1子の産後の苦い経験があったからだ。女性は「夫婦で何とかなると思っていたが体も動かずいっぱいいっぱいだった。初産の人が産後の大変さをもっと理解する必要がある」と話す。

東京で産前産後ケア事業などに取り組む会社を運営する助産師の濱脇文子さん(同市出身)は、妊産婦のさまざまな困り事を解消できる情報提供の場づくりを官民で進める必要があると指摘。「(家事・育児支援の)利用がないから『ニーズがない』ではない。本当に困っている人に必要な情報を届ける方法を考えるべきだ」と述べた。

(嘉村友里恵)

母親の仮眠中に赤ちゃんの沐浴を行う家事サポーター＝佐世保市内

10月5日付長崎新聞に家事サポート関連の記事が掲載されました。みなさんからは「新聞の一面って、長崎新聞の本気を感じた！」とか「トランプ大統領のコロナ感染の記事の上の位置ってすごい！」とか…のお声をいただき、確かに。

この記事のおかげで10月に入り家事サポートの問い合わせ、佐世保市育児等支援サービスの利用も増加しています。

「必要な人に情報を届けること」は意外に難しいことです。「必要な人」とは誰？　多分現状では多くの方が対象になると思っています。

10月14日NHKニュースで「産後うつ」の女性の増加が報じられました。コロナ禍と孤立化が要因かと思うところ。誰しもが不安な昨今、生まれたばかりの小さな命と毎日向き合う人たちがいることに、もっと社会は関心を寄せるべきだと思うのです。

私たちたちが思う「支援が必要な人」とは、実家が近いとか遠いじゃなく、産前産後に支援してくれる「誰か」が近くにいない人です。

昨日、あるママからの相談。「私は事情があって実家とは疎遠です。2人目を望んでいますが、誰かの支えがないと出産も子育ても難しい。2人目を産むのは無理かなと思います」ということ。今回の佐世保市育児等支援サービスの対象外の方なので、家事サポートを利用する時にはそれなりの経済的な負担をお願いしないといけませんが、でも、絶対に支援はできるからとお伝えしました。

いま「ちいきのなかま」が取り組む支援の必要性に確信をもつ日々です。

いらすとでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

無償の仕事ってこ～んなかんじ

by 蓮すいか

自慢できることじゃないけれど、息子が無断バイトで校則違反したときのこと。息子は10代後半、生きる意味が自分にあるのかと悩み考えていました。親としてまずは「働いてみたら」と思ったし息子もそう考えてバイトを開始、まずは働いて自分にできることがあるのか試すことを選択しました。結果この経験から息子は自分にもできることがあると実感しました。後日、そのバイトは学校に見つかり息子は処分を受けました。親子とも学校に呼ばれて教師と会話。親は息子が生きる意味が見えないといった件などを伝えて、自分で働くことで、生きる意味を見出したと伝えました。教師が「ならばバイトじゃなくボランティアをすればいい」と言いました。お金を稼ぐことが良くない…というような言いぶり。それについてボランティア活動は自分のためのものじゃないこと。誰かを支えることが本当に高校生にできるのか、逆に迷惑をかけることすらある。その行為の価値の有無を感じるとしたら自己満足にならないか。しかし、賃金労働は働きにたいして明確に対価が発生し自分の労働の価値が自覚できる。いただいたお金で自分が望むことも実現できるかも知れない、とてもわかりやすいですよ…ごく具体的に生きているっていいなと思うんじゃないか…と伝えました。教師の意見は真逆で、話にならない…という空気。処罰対象のくせに…ですよね。

私はNPOやボランティア、ソーシャルビジネスは社会に新たな価値を創造することと考えてきたけれど、当然、社会の価値観は多様です。私には息子が3人いますが、3人ともこんな親と社会の狭間で苦労したと思います。申し訳ない。でも今でもあの教師のボランティア観は間違えていたと思っています。

産前産後のサポートとしてカウンセリングを開始
～みなさんからのご寄付の一部を財源とさせていただきます～

昨年度、ちいきのなかまでは家事サポート展開の時の利用者負担軽減を、目的として寄付金を集めさせていただきました。

想定外のことでしたが、この通信の1面でご紹介しましたように、佐世保市で育児等支援事業が始まり、当法人家事サポート部門に収益が上がる予定です。このことはとても嬉しいことです。同時に「寄付」の使途についても再考することにいたしました。私たちはみなさんのお気持ちのこもった寄付は利用者の方々に還元したく、今回、その一部で利用者さん向けカウンセリングを開始したいと思います。

カウンセリングは利用者の方のご希望にそって生活支援のケアプランづくり、抱っこや子どもとのコミュニケーション、沐浴の方法や子どもの発達、復職までのスケジュールについてなど、助産師さんにも対応をお願いして幅広く対応していこうと思います。ご寄付いただいた皆さんにはその経過を後日ご報告させていただきます。

ファミサポ企画
～北部地域で開催の会員養成講座、よろしければご参加ください～

この講座は佐世保市の北部、旧合併地域でのファミサポの普及を目的に開催します。今回、講師の柿田多佳子さんのご協力で「児童福祉」を地域密着の視点から地域住民の関わりにどのような可能性があるのかをお伝えいただきます。地域子育て支援の中で虐待、マルトリートメントが見え隠れする現状があり、それがわかった段階で通報すれば済むのかといえば現実はそうではない。そのご家族の日常は日々継続します。その家族を孤立させないように支援者はつかず離れず寄り添い続けていく必要がある。その時にどんなスタンスで向き合うのか、これが現場の新たな課題だと思います。そして、状況を理解しつつ向き合う支援者にもケアが必要だと思っており、午後は支援者としてどう向き合うのかについてお伝えできればと思います。

●これからのイベントや講座の予定

イベント名	日時	会場	内容
ぽちぽちヨガ教室	10月26日（月） 14:00～15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費￥500　会員外￥800
おもちゃ図書館	10月27日（火） 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料
ファミサポ提供会員 交流会	11月26日･28日･ 30日	ボランティアセン ター別館	要事前申込
ぽちぽちヨガ教室	11月9・30日 （月） 14:00～15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費￥500　会員外￥800
北部地域ファミサポ 会員養成講座	11月14日（土） 10：00～15：00	吉井地区公民館	無料・受講後登録可
ファミサポ 会員養成講座	11月24～26日	ボランティアセン ター別館	2020年度第一回

編集後記

「このあたりのどんぐりはまだ青いけど〇〇公園のどんぐりはちょうどいい感じですよ」「△△公園は昼の間は暖かくて子どもにはいい感じですよ」ファミサポ提供会員さんの会話です。ご自身の暮らしの中でいつも子どもと子育て支援を考えてくださいます。

女性は子どもを産み育てることで2度子ども時代を経験する…その2度目の体験を通して人として成長されるので女性は優れている…と言います。子育ての支援者の多くの方は活動を通して3度目の子ども時代を経験されているように思います。そのなかでまた新たな気づきを得られ、人生を豊かにされているのだと感じています。そんなことを感じる良い秋の日。

NPO法人ちいきのなかま

入会・会員（正・賛助）会員継続のご案内
正会員：総会議決権あり　入会金¥1,000　年会費￥6,000
賛助会員：総会議決権なし　年会費￥3,000
主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先　NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19
携帯　090-9498-3608
E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp
HP:http://chiikinonakama.boo.jp/